

バラモン凧

バラモン凧は、鮮やかな絵付けが施された手作りの凧で、鬼の顔が睨みをきかせている。真っ向から鬼に挑んだ武士の兜に、鬼が噛みついている絵柄が描かれており、武士の強靱な人格と大胆不敵さを示している。五島の伝統では、かつて "男の子の節句"として知られていた 5 月 5 日の初節句に、父親か祖父が男の子供にバラモン凧を贈る。この贈り物には、子供の安全、成功、勇気を願う意味が込められている。

大きな紙凧は各地にあるが、鬼と兜のデザインが特徴的なのは五島だけである。凧そのものと同様、この絵柄の由来は定かではないが、何世紀も前の民話には、鬼に噛まれるのを食い止めた兜に救われた武士たちが描かれている。このバラモン武者は渡辺綱（953-1025）と言われており、芸術や民間伝承の中で鬼を退治した英雄として称えられている。

バラモン凧は、14 本の竹の棒を交差させた枠に、絵付けした和紙を糊付けしたものである。すべての凧に鬼と兜が描かれているが、凧の色やその他の装飾の細部は作り手によって選ばれる。もうひとつの特徴は、鬼の頭上に弓の弦のように張られた細長い棒である。この棒は凧を上げると振動し、「うなり」と呼ばれる独特の音を発する。この恐ろしい音は、潜んでいる不吉なものを追い払うとされている。

バラモンという名前の由来には諸説あるが、最も広く受け入れられているのは、「ばらかもん」という言葉に由来するというものだ。五島弁では、「ばらかもん」とは陽気で騒々しい人のことで、凧の騒々しさ

と、健康でわんぱくな子供であってほしいという願いが込められている。